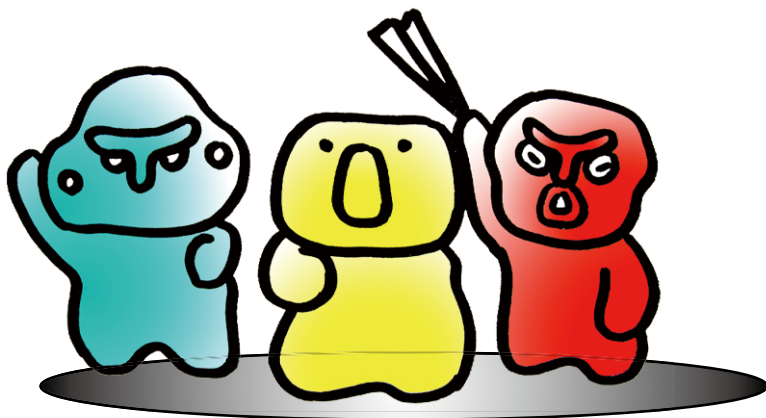


# 2010年 新たな一歩！



今年もよろしくお願ひします。

芝生にお弁当を広げて寛ぐ人、縄文の森で遊ぶ子どもたち。そんな気持ち

でやめておきましょう。下草に野草が花を咲かせ、薬草として使われていたような草が普通に繁茂している風景が理想です。本当のところは毒草も欲しいのですが、危険なのでやめておきましょう。

「縄文の森」を目指して植栽したした木々も随分と生長し、クルマミヤドングリも実をつけるようになりました。しかし、まだまだ夏の炎天下に木陰で涼を取るほどではありません。イヌガヤの枝を採り、弓を作ることができます日はまだ先です。

「下宅部遺跡はっけんのもり」は、昨年5月に開園5周年を迎えました。また、念願の「八国山たいけんの里」もオープンし、ようやく車の両輪がそろった形で、育てる会の活動が行えるようになりました。

「縄文の森」を指して植栽したした木々も随分と生長し、クルマミヤドングリも実をつけるようになりました。しかし、まだまだ夏の炎天下に木陰で涼を取るほどではありません。イヌガヤの枝を採り、弓を作ることができます日はまだ先です。

「はっけんのもり」とたいけんの里を舞台として、会の活動がさらに発展することを願っています。(歴史館・千葉)

「はっけんのもり」とたいけんの里を舞台として、会の活動がさらに発展することを願っています。(歴史館・千葉)

「はっけんのもり」とたいけんの里を舞台として、会の活動がさらに発展することを願っています。(歴史館・千葉)

「はっけんのもり」とたいけんの里を舞台として、会の活動がさらに発展することを願っています。(歴史館・千葉)

「はっけんのもり」とたいけんの里を舞台として、会の活動がさらに発展することを願っています。(歴史館・千葉)

「はっけんのもりを育てる会」とは？  
下宅部遺跡を後世に残すためにつくられた遺跡公園「下宅部遺跡はっけんのもり」(所在地 東村山市多摩湖町4丁目3番地)の管理・運営と、下宅部遺跡および考古学一般についての知識を広めることを目的としています。  
そのための具体的な活動としては、「下宅部遺跡はっけんのもり」の除草・清掃、縄文体験を行う開園周年イベント「お誕生日会」と「東京都文

化財ワイーク」参加イベント。縄文土器づくり教室とその時に作成した土器を焼く縄文土器の野焼き。日帰り研修見学会と宿泊研修。はっけんのりの生物調査や縄文食の材料となるトングリ拾い。遺跡に関する専門家の先生を招いての講演会。そして会の運営のための会議などを行っています。また、有志による土器部会・アングイン部会があり、小学校への出前授業のお手伝いや、はっけんのもりでの案内も行っています。

ニュース

みんなでつくろう！  
下宅部遺跡はっけんのもり

第101号【'10-1月号】

発行：下宅部遺跡  
はっけんのもりを育てる会  
東村山市諏訪町1-6-3  
TEL：042-396-3800  
発行日：平成22年1月15日

第94回育てる会

下宅部遺跡はっけんのもり講演会

講師 小薬一夫氏

「縄文時代の植物利用」

小薬一夫氏は、縄文時代の植物利用について、通常の考古学的手法と実験的なアプローチを併用して追求している研究者です。縄文時代の食や衣（繊維）などについて、採取から調理や加工など、分かりやすくお話ししていただきます。縄文時代の体験学習を行う上でも、非常に参考になると思いますので、是非ともご参加ください。

去年の3月に発行された『東京都埋蔵文化財センター 研究論集XXV』の中で、小薬氏は「縄文生活―あるいは縄文スローライフ」という考察を発表されています。東京都埋蔵文化財センターの「縄文庭園」にいられた一般の見学者を読者に想定して書かれたこのことです。平易で分かりやすい文章とカラー写真とで、縄文人の四季の生活の様子が綴られています。

その最後の方に、次のような文章があります。

「食べることが全てにおいて優先されて形成される。……四季の複合体としての縄文生活があった。……現代的なスローライフという表現が適切かどうかはわからない。……生きるために汗を流し、多くの命の犠牲の上に成り立っていた、……縄文社会の基本は、あくまでも自然の中で自然に生かされてきたこと。……私たちは自然の中で貪欲なまでに生き抜いてきた縄文人の生きる力を縄文人からのメッセージとして改めて受けとめ、次の時代に何を残すことができるのか、何を語り継がなければならぬのかを問い続けていきたい。あえて、スローライフという言葉に期待を込めて。」

基本的には、縄文時代の様々な道具や技術は互いに組み合わさって「食料獲得のため」というところにつながっていきます。そして、食料である植物や動物は命あるものであり、人間は命を食べて生き、子孫を残していきます。それは縄文時代も現代も同じであり、未来にも通することでしょう。さて、当日はどのようなお話しが聞けるのか、楽しみにしててください。

また小薬氏は、平成22年3月10日（水）に、東京都埋蔵文化財センターの平成21年度第5回文化財特別講演会として、「縄文スローライフ―縄文の四季―」と題した講演会をおこないました。重ねてご参加いただければ、さらに理解が深まることと思います。

演題 「縄文時代の植物利用」  
講師 小薬一夫氏

日 時 平成22年2月21日（日）  
午後1時30分～4時

会場 東村山ふるさと歴史館  
参加費 会員100円・一般200円  
問い合わせ

東村山ふるさと歴史館  
042・396・3800

育てる会

今後の予定

1月16日（土）午後1時30分から

第93回育てる会「臨時検討会議・下宅部遺跡講座」（ふるさと歴史館）

1月23日（土）午前9時から

除草・清掃作業（はっけんのもり）

※雨天の場合は30日（土）に延期

1月24日（日）午後1時30分から

縄文土器作り（八国山たいけんの里）

1月28日（水）午後1時30分から

アンギン編み（八国山たいけんの里）

2月7日（日）午後1時30分から

縄文土器作り（八国山たいけんの里）

2月11日（水）午後1時30分から

アンギン編み（八国山たいけんの里）

2月13日（土）午前9時から

除草・清掃作業（はっけんのもり）

2月21日（日）午後1時30分から

第94回育てる会「下宅部遺跡はっけんのもり講演会」（ふるさと歴史館）

2月25日（水）午後1時30分から

アンギン編み（八国山たいけんの里）

2月27日（土）午前9時から

除草・清掃作業（はっけんのもり）

※雨天の場合は3月6日（土）に延期

延期